



本日はよくお参り下さいました

行く春が惜まれる今日この頃、皆さまお変わりありませんか。この文章を書いている今は暦の上では穀雨(こくう)の時期です。穀雨は百穀を潤す春雨を言います。最近、時間があるときは、地面から次から次へと生えてくる草と向き合っています。やわらかい土から、うすみどりの葉を伸ばしている草は、ふかふかのふとんで寝ている赤ちゃんのようです。触っていると、不思議と元気が出てきます。どうやら人間は土なしでは生きられないようです。さて、先月は北朝鮮が挑発行為を繰り返す社会問題になりました。端から見て北の指導者は、とてもかたくなに見えます。周りのすべてを敵視するかのようです。すべてを敵視すると、人の情けを受けていることにも気付けなくなります。苦しい時こそ、周りの声に耳を傾けたいものですね。今月も皆様のご多幸をお祈り申し上げます。権禰宜 道子



5月

1日・15日 月次祭(つきなみさい) 皇室の弥栄と国家安泰、氏子崇敬者並に社会の幸福と平和を祈る。

3日 憲法記念日 憲法施行を記念し国の成長を期する。

4日 みどりの日 自然に親しむとともに、その恩恵に感謝し、豊かな心をはぐくむ。

5日 端午(たんご) 古代中国では、奇数の月と日が重なる日は良くないことが起きるとして厄払いのようなことが行われていました。日本では五月は田植えを始めるシーズンであり、乙女(さおとめ)と呼ばれる若い女性たちが、「五月忌み」として田の神様のために仮小屋や神社などにこもって身の穢れを祓う習わしがあったことから、女性の節句だったという説もあります。今はお祝いの意味合いが強く、こどもたちの立身出世を願う日となっています。

田植の日に苗を田に植える女性のことを早乙女(さおとめ)と呼ぶ。ハレの役であり、神に奉仕する神役でもある。



5日 立夏(りっか) 春ようやくあせて、山野に新緑が目立ち始め、風もさわやかになってようやく夏の気配が感じられてくる。気象的にはまだ春の感が強い。

21日 小満(しょうまん) 万物次第に長じて、天地に満ちはじめるという意味。この頃から梅雨となる年が多い。

天神さまの豆知識

― 絵馬は本物の馬だった? ―

かつて生きた馬を神に捧げていた時期がありました。「神馬(しんめ)」という言葉があるように、馬は神様の乗り物として、神聖視されていたのです。そのため、祭祀や祈願のときには馬を奉納し、神様のお出ましを願ったのです。例えば、祈雨(きう)のときには黒馬を、止雨(しう)のときには白馬を奉納しました。しかし祭祀のたびに生きた馬を奉納するのは大変なので、木や土でつくった馬の像を奉納するようになり、やがてさらに簡略化し、木の板に馬の絵を書いて奉納するようになりました。現代のように、さまざまな図像が見られるようになったのは、鎌倉時代以降のことだとされます。絵馬に神像や神の持ち物、神の使いなどが描かれるようになり、また一般にも絵馬を奉納する習慣が広まりました。安土桃山時代には、絢爛豪華な絵馬が流行し、江戸時代になると、絵馬が小型化し、現代に近い形となり、縁結びや商売繁盛など、一般的な願いが反映されたものが多くなります。時代は変われど、人の願いはそう大きくは変わらないうです。参考 『神道とよきこと』 茂木貞純監修 P. H.P 研究所発行



神馬の奉納(イメージ)

鯉のぼりは、急流を泳ぎのぼった鯉は龍と化すという「登竜門」の故事にちなみ、こどもの立身出世を願って建てられるようになりました

五色の吹き流しの色にはそれぞれ意味があり、青(緑)は「木」、赤は「火」、黄は「土」、白は「金」、黒(青)は「水」を表し、邪気を祓います。(万物が、バランスよく成り立つことを、表現しています。)

真鯉は父親を表し、緋鯉は母親を表し子鯉は子供たちを表しています。

てっぺんの、かご玉は、神様に見つけて頂くための目印、カラカラ回る矢車は、魔よけの意味があります。



今月の言葉

『一村は互いに助け合い、互いに救い合うの頼もしい事、朋友の如くなるべし』

上杉鷹山

一つの村に住まうみんなが、助け合う合理性を説いている。人間が一人でできることは、限りがあがる。地域の共同体で、親友のように、みんなが互いに助け助けられる関係を築ければ、その頼もしさは、かけがえのないものである。参考文献 『神道のことば』 武光誠監修 河出書房発行